

蒲郡市観光まちづくりビジョン改訂版

パブリックコメント募集で提出された意見の概要及び意見に対する考え方

(令和8年1月8日から令和8年2月6日まで実施)

No.	提案者	意見	市の考え方
1	A	<p>アクションプランの具体性がないため、具体的に何を、いつまでに、どの程度実現させるのか数値で明確にしてほしい。また、「目指します」「強化してゆきます」「推進します」「高めます」「充実させます」「力をいれます」「提案を行います」「進めます」「実現します」などの文言は禁句にしてほしい。</p>	<p>アクションプランにつきましては、ビジョン策定後の社会状況変化への対応なども考慮し、数値目標として定めるのではなく、柔軟に対応できるような表現としております。</p>
2	A	<p>アクションプランに「検討します」という言葉が散見されます。実現目標年や今ビジョン期間中にどこまで施策を行うのか具体的に記載してほしい。また、今ビジョン期間中に実現、課題解決すべき事案にも「検討」とされているが、結局検討で終わってしまわないか。(例) AI、ICTなどの先端技術の導入、路線バスを活用した周遊モデルコース、電動モビリティの導入など ただし、路線バスを活用した周遊モデルコースは実現不可能で、実現させても使い勝手の悪いコンテンツになってしまうため、計画自体をやめるべきだと思います。</p>	<p>検討しますと記載しているものにつきましては、様々な市の課題と照らし合わせながら、どのようなタイミングで実施するかも含め検討をさせていただくものになります。 また、路線バスを活用したものについては、課題となっております市内の回遊性という部分の解決策の一つとして提示させていただいております。以下の通り修正します。</p> <p>現行案 路線バスを活用した周遊モデルコースを検討し、観光スポット間のアクセスを向上させます。</p> <p>修正案 公共交通(鉄道、路線バス等)を活用した駅～観光スポット間のモデルプランを検討し、自動車以外で訪れる方の回遊性を向上させます。</p>
3	A	<p>蒲郡市観光まちづくりビジョンにおける“住民”の定義として、「この蒲郡市観光まちづくりビジョンは、蒲郡市を訪れる旅行者も「一日生活者」としての“住民”と捉え、・・・」とありますが、以降ビジョン案には「住民」というワードは出てきません。そもそもビジョンの中に記述されない「住民」というワードを定義付けする意味がありません。全く不要な定義付だと思えます。7アクションプランのターゲットにも「住民」というワードは記載されていません。今後、齟齬が出ることも予想されますのでこの文脈は削除をお考え下さい。</p>	<p>蒲郡市観光まちづくりビジョンの基本理念として、観光客等の方々も住民として捉え、あらゆる人の心に蒲郡市を存在させていきたいという考え方のもと、使用しています。</p>

4	A	<p>蒲郡市が「観光地」としてのしつらえになるような環境整備を進め、蒲郡市は観光地として、「まち全体が生み出す幸福感」を全ての関係者が享受できるようにしていくことが重要です。</p> <p>⇒「しつらえになるような」は意味不明なので不要。⇒蒲郡市「は」観光地として⇒蒲郡市「を」または「蒲郡市にとって」観光地として・・・のほうが自然</p>	<p>蒲郡市全体として、非日常感を演出できるようなハード面の整備を検討するといった意味で観光地としてのしつらえになるようなという文言を入れております。</p> <p>また、ご意見いただいております蒲郡市「は」観光地として、・・・という記載につきましては、意味が伝わりにくい部分もございますので、さらに意味が伝わりやすいように下記のように文言の修正を行います。</p> <p>蒲郡市の観光地としてのしつらえを整えるとともに、「まち全体が生み出す幸福感」</p>
5	A	<p>P3 蒲郡市を「観光産業の活性化」と「まちづくり」の両方の側面から支援していく必要があります。誰が蒲郡市を支援するのでしょうか？ ⇒「蒲郡市を」は「蒲郡市は」の間違いではありませんか。</p>	<p>ここでの蒲郡市は所在地としての意味で使用しております。</p>
6	A	<p>基本理念において観光産業の活性化については、（一社）蒲郡市観光協会が主導となり、観光事業を磨き上げ、育成し、PRしていきます。また、基本方針3で（一社）蒲郡市観光協会が地域DMOに認定され、より一層、観光地経営の視点が重要になってきます。とありますが、ビジョンには（一社）蒲郡市観光協会が主体となる観光産業の経営方針、具体的な活性化案、が見当たらないように思えますが。どこに記載されていますか。観光地の経営とはどういうものなのか興味があります。（表紙を見る限り一社蒲郡市観光協会と合同ビジョンに見えます）</p>	<p>18ページに記載がある、（一社）蒲郡市観光協会を中心とし、地域まちづくりの担い手との連携や支援によって、観光地経営を行っていくものと考えております。また、具体的な経営方針を定めるものではなく、官民一体となった経営方針を示すものです。</p>
7	A	<p>基本方針3-1効果的なプロモーションの展開（27p） 富裕層向けの観光コンテンツを効果的に発信し、専門エージェントとのネットワークを構築して誘客を強化しています。とありますが、具体的なコンテンツと実績を記載ください。大型客船寄港のことだけですか。</p>	<p>現時点では主にクルーズ客船のことを指しています。基本方針のため、具体的な実績等の記載は考えておりません。</p>

8	A	<p>4-4ユニバーサルデザインへの対応 (33 p)</p> <p>公衆トイレのホスピタリティという言い方に違和感あります。日本語で表現したほうが良いと思います。又、公衆トイレという名称は昭和の汚いトイレというイメージがあります。公共トイレとかパブリックトイレとか新しい名称を考えていただきたい。</p> <p>ユニバーサルデザインのポイントは、障がい者であれ、健常者であれ、使用する人、メンテナンスをする人にとって使い勝手がよく、快適であることが最低条件です。最近では、ジェンダーへの対応も必要です。できれば、観光地又は集客施設のトイレカ所を選定してこれが蒲郡の誇れるユニバーサルデザインに基づくトイレのプロトタイプをつくってください。その後、多方面から評価、修正して他の施設に取り入れていただきたい。(トイレに限らずデザインを優先した話題作りの設備だけははやめていただきたい)</p>	公共トイレという表現に統一します。
9	A	11P基本目標 素朴な疑問 観光客数はどのように算出されるのでしょうか？	観光入込客数の算出は、基本的には、愛知県が観光振興を図る上での基礎資料とすることを目的に実施している「観光レクリエーション利用統計」の調査に準拠しています。ただし、今回のデータは取りまとめのタイミングにより、愛知県が公表しているものと数値が異なっております。算出方法は各施設に委ねられているもので、公開はしていません。
10	A	冒頭に“多様な人の想いをかなえられる観光まちづくり”と書いてあります。推進委員会での考え方は理解できますが、すべてに応えるには限度があります。従って、今プラン期間の重点施策を決めて取り組むことを提案するとともに、観光まちづくりは本当に「市民が豊かになる」のか、原点に戻ってその答えを観光まちづくりの目的として掲げていただきたい。 判断基準は「市民の豊かさ（ウエルビーイング）」	観光まちづくりビジョンとしては、“多様な人の想いをかなえられる観光まちづくり”に基づいて、改訂を行っております。